

平成 24 年度第 1 回経営工学教育 FD/ICT 活用研究委員会議事概要

I. 日時 : 平成 24 年 6 月 23 日 (土) 10 時 30 分から 12 時 30 分まで

II. 場所 : 公益社団法人 私立大学情報教育協会 事務局会議室

III. 出席者: 渡邊委員長、井上委員、水野委員、後藤委員、小池委員、
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、野本職員

IV. 検討事項

1. 教育改善モデルを実施するために必要な教育力について

報告書発行に向けて、今年度は昨年度に引き続き、「教育改善モデルを実施するために必要な教育力」を提案・検討することとなった。

今回の委員会では、【1】経営工学教員に期待される専門性を作成することとなった。作成作業においては、以下の委員の意見に基づき、期待される専門性の検討を行った。

- ・ 経営工学関係教員が、広く参加・賛同できるよう、余り具体的な表現を避け、包括的な内容とする。但し、後で提案・作成する改善モデルは具体的なものとする。
- ・ 他分野の専門性と同様、「態度」「知識」「技術」がそれぞれ盛り込まれる様に配置を検討する。
- ・ 教育者を教育の技術者と言う観点で捉え、教育者としての強い使命感を扱うこととした。
- ・ 経営工学が本来目指すべき観点を記述することとし、他分野との違いはビジネスだけでなく、組織にも注目していることを明記する。
- ・ ものづくりだけでなく、「ことづくり」「サービスづくり」にまで言及する。
- ・ 国際的視点・潮流、広い視点で捉えることを強調する。例えば、グローバル化のためには、地域のことを知らないといけない。これをマクロな視点とミクロな視点で表現した。
- ・ とらえ方も多面的、全体像的である必要性を主張する。
- ・ 解くべき問題は何かを捉え、問題解くために、システム的な考え方が必要であることに注目する。
- ・ 経営工学のキーワードは PDCA、これを含めた内容としてシステムの計画・設計・運用・管理・改善を挙げた。
- ・ できるは誰にもできない可能性があるので、取り組むことができる程度に抑える。
- ・ 連携について企業や組織が社会に含まれることを考慮した上で、地域社会を社会と設定した。
- ・ 主体的・協調的な取組みは、システムとしての活動から組織活動へ変更する。
- ・ 教育技術ではなく教育技法とし、活用を乗り越えて駆使、実践的・検証・発信も入れる。

V. 次回の予定

- ・ 教育モデル実現に求められる教育力の検討を行うことにした。
- ・ 次回開催: 平成 24 年 8 月 3 日 (金) 18 時から 20 時まで